

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公表番号】特表 2002-543105 (P2002-543105A)

【公表日】平成 14 年 12 月 17 日 (2002.12.17)

【出願番号】特願 2000-614967 (P2000-614967)

【国際特許分類第 7 版】

A 61 K 7/075

【F I】

A 61 K 7/075

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 2 月 23 日 (2004.2.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

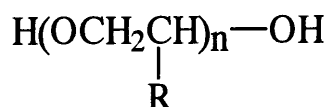
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

- a) 組成物の質量の 5 % ~ 50 % の陰イオン系界面活性剤；
- b) 組成物の質量の 0.01 % ~ 10 % の非揮発性コンディショニング剤；
- c) 組成物の質量の 0.1 % ~ 4 % の抗ふけ粒子；
- d) 組成物の質量の 0.02 % ~ 5 % の少なくとも 1 つの陽イオン系ポリマー；
- e) 組成物の質量の 0.005 % ~ 1.5 % の、式：

【化 1】



に一致し、

i) 式中 R は、水素、メチル、及びこれらの混合物から成る群から選択され、

ii) 式中 n は、1, 500 ~ 120,000 の平均値を有する整数であるポリアルキレングリコール；及び

f) 水

を含むことを特徴とするシャンプー組成物。

【請求項 2】

前記の少なくとも 1 つの陽イオン系ポリマー成分が、グアー誘導体、好ましくはグアーヒドロキシプロピル塩化トリモニウム、セルロース誘導体、好ましくはポリクアテルニウム-10、及びこれらの混合物から成る群から選択される請求項 1 に記載のシャンプー組成物。

【請求項 3】

前記の少なくとも 1 つの陽イオン系ポリマーを、前記組成物の質量の 0.1 % ~ 1 % 含むことを特徴とする請求項 1 ~ 2 のいずれかに記載のシャンプー組成物。

【請求項 4】

前記グアー誘導体が、分子量 50,000 ~ 700,000 及び電荷密度 0.05 meq/g ~ 0.9 meq/g を有し、及び前記セルロース誘導体が分子量 200,000 ~ 1,500,000、好ましくは 350,000 ~ 500,000 及び電荷密度 0.2 meq/g ~ 0.6 meq/g を有する請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載のシャンプー組成物。

【請求項 5】

前記非揮発性コンディショニング剤が、分散したシリコーンを含有する請求項 1～4 のいずれかに記載のシャンプー組成物。

【請求項 6】

前記ポリアルキレングリコールが、1, 500～50, 000、好ましくは3, 500～15, 000のnの平均値を有する請求項 1～5 のいずれかに記載のシャンプー組成物。

【請求項 7】

前記抗ふけ粒子が、1-ヒドロキシ-2-ピリジンチオンの亜鉛塩であり、好ましくは前記1-ヒドロキシ-2-ピリジンチオンの亜鉛塩が小板状の粒子形状をしている請求項 1～6 のいずれかに記載のシャンプー組成物。

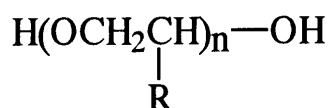
【請求項 8】

前記組成物が、更に前記組成物の質量の0.1%～10%の懸濁剤を含み、好ましくは前記懸濁剤がエチレングリコールジステアレートである請求項 1～7 のいずれかに記載のシャンプー組成物。

【請求項 9】

- a) 組成物の質量の10%～25%の陰イオン系界面活性剤；
- b) 組成物の質量の0.01%～10%の不溶性、非揮発性シリコーンコンディショニング剤；
- c) 組成物の質量の0.3%～2%の1-ヒドロキシ-2-ピリジンチオンの亜鉛塩；
- d) 組成物の質量の0.1%～1%のグアー誘導体、セルロース誘導体及びこれらの混合物から成る群から選択される少なくとも1つの陽イオン系ポリマー；
- e) 組成物の質量の0.025%～1.5%の、式：

【化 2】



に一致し、

- i) 式中Rは、水素、メチル及びこれらの混合物から成る群から選択され、
 - ii) 式中nは、3, 500～15, 000の平均値を有する整数であるポリアルキレングリコール；及び
 - f) 水
- を含むことを特徴とする請求項 1に記載のシャンプー組成物。

【請求項 10】

- a) 毛髪を水で湿潤し；
 - b) 請求項 1～9 のいずれかに記載のシャンプー組成物の有効量を前記毛髪に適用し；及び
 - c) 前記毛髪から水を用いて前記シャンプー組成物をすすぐこと；
- から成ることを特徴とする抗ふけ効果及び前記毛髪のコンディショニングを提供するための方法。

【請求項 11】

カルボン酸の亜鉛塩、サポニン、トリテルペン、オレアノール酸、ウルソール酸、ベツリン酸、ベツロン酸、クラタエゴール酸、セラストロール、アジアン酸、5-α-還元酵素阻害物質、プロゲステロン、1, 4-メチル-4-アザステロイド、17-β-N, N-ジエチルカルバモイル-4-メチル-4-アザ-5-α-アンドロスタン-3-オン、アンドロゲン受容体拮抗物質、酢酸シプロテロン、ミノキシジル、アゼライン酸及びその誘導体、シクロスポリン、トリヨードサイロニン、ジアゾキシド、カリウムチャンネル作動物質、クロマカリン、フェニトイン、ケトコナゾール、フィネステライド、デュテステライド、コルタール、グルコン酸亜鉛、グルココルチソイド、マクロライド、アミネキ

シル及びこれらの混合物から成る群から選択される育毛調節剤を組成物の質量の0.001%～15%含むことを更に特徴とする請求項1～10のいずれかに記載のシャンプー組成物。

【請求項12】

- a) 毛髪を水で湿潤し；
 - b) 請求項11に記載のシャンプー組成物の有効量を前記毛髪に適用し；
 - c) 前記毛髪から水を用いて前記シャンプー組成物をすすぐこと；
- から成ることを特徴とする前記毛髪の育毛を調節する方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

高屈折率ポリシロキサン液はまた、そのアリール置換基のために比較的表面張力が高いことで特徴付けられる。一般に、ポリシロキサン液の表面張力は、少なくとも約2.4 Pa、典型的には少なくとも約2.7 Paである。表面張力の測定は、この目的のためには、デ・ノウィ (de Nouy) リング張力計を使用して、ダウコーニング社の試験方法 C T M 0461 (1971年11月23日) に従って測定した。表面張力の変化については、上述の試験方法、又は A S T M (アメリカ材料試験協会) 方法 D 1331 に従って測定できる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

同様に展着剤は、表面張力を少なくとも約0.2 Pa、好ましくは少なくとも約0.3 Pa、より一層好ましくは少なくとも約0.4 Pa、最も好ましくは少なくとも約0.5 Paまで低下させることになる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

ポリシロキサン液及び展着剤の混合物の表面張力は、最終製品の存在比率では、好ましくは約3 Pa以下、より好ましくは約2.8 Pa以下、最も好ましくは約2.5 Pa以下である。典型的には表面張力は約1.5 Pa～約3 Pa、より典型的には約1.8 Pa～約2.8 Pa、最も一般的には約2 Pa～約2.5 Paの範囲となるであろう。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0156

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0156】

【実施例】

本発明の抗ふけ及びコンディショニングシャンプー組成物の実施例を以下に示すがこれに限定されるものではない。これらの実施例は単に説明の目的だけで示されており、本発明の範囲から逸脱することなく本発明の多数の改変が可能であって本発明を限定するもの

ではなく、当該分野で通常技術の 1 つにより認められるものである。実施例において、特に指定のない限り、すべての濃度は質量パーセントで示されている。本明細書で使用する時、「微量成分」とは防腐剤、粘度改質剤、pH 改質剤、香料、起泡増進剤などのような任意成分を表す。当該分野での通常技術の 1 つに明白なように、このような微量成分の選択は、本明細書に記載された本発明を作成するために選択された粒子状成分の物理的及び化学的特性に依存して変化することになる。